

平成19年度・平成20年度の国際教養の取り組み

The Global Liberal Studies Activities in 2007 and 2008

国際教養委員会 秋山寿彦・古家正暢・山根正博

はじめに

平成19年4月に開校した東京学芸大学附属国際中等教育学校では、学校設定の新領域として国際教養<註1>を設定した。国際教養は、本校の教育課程上において、学習指導要領で示される総合的な学習の時間、道徳、及び学級活動を統合し、更にそれらの領域と教科学習との関連を図り、学習の深化、補充、統合をめざす学習として位置づけられている。

同時に、国際バカロレア機構（以下IB）のミドル・イヤーズ・プログラム（以下MYP）の認定校となる準備に取り組む本校では、国際教養の学習は、学習への姿勢（ATL）・多様な環境・人間の創造性・コミュニティと奉仕・健康と社会生活という5つの領域の相互作用・関連（AOI）を背景に、人間理解・国際理解・理数探究・LEを柱として、内容構成を図っている。

そして、国際教養の学習の到達目標としては、第5学年終了時に、生徒一人一人が、英語を用いてディスカッションすることができる力を獲得し、外国人をはじめとして異なる価値観を有する人々や海外の学校をも視野に入れて、学びの成果を広く発信し、交流に意欲的に取り組むことができる生徒の育成を掲げた。

このような目標の実現をめざして、第1学年・第2学年の国際教養では、次の5点に留意し学習活動のあり方を工夫した。

- ① ワークキャンプやフィールドワークなど学校外での体験学習の充実を図った。
- ② 学級の枠をはずした学習集団を編成し、生徒の相互交流、相互啓発を図る学習を多く取り入れた。
- ③ 外部の専門家及び専門機関との連携を図ることで、生徒の学習への関心や意欲を高めると共に、国際教養の学習が、教科学習を基盤とした発展的な学習となることをめざした。
- ④ 情報に関するスキルの習得に取り組み、議論する力を高めるとともに、プレゼンテーション技能の形成を高める活動を多く取り入れた。
- ⑤ 新聞作成や400字の原稿用紙3～4枚程度のエッセイ・作文の作成、ボードゲーム作成を学習のまとめに位置づけ、相互評価活動を取り入れるとともに外部のコンクールへ応募することを試みた。

<註1> 国際教養については、平成20年6月に実施した第1回公開研究会冊子、「未来を開く中等教育学校の学びのすがた」P9～P11を参照。

1 第1学年の実践

- ① よりよいプレゼンテーションを目指したツインリンクもてぎでのワークキャンプ

本校に入学した1年生が最初に取り組む国際教養の学習では、学級の枠にとらわれることなく多くの生徒と、日本語によって「議論」する機会を多く設定し、次の3点をねらいとして、ツインリンクもてぎでの2泊3日の国内ワークキャンプIを実施した。

- i 課題を正確にとらえ、問題意識を明確に持つこと
- ii 自分の意見や考えを他者にわかりやすく正確に伝え、学習チームの一員としてチームワークを意識する。他者の意見を受容的に受けとめるとともに、批判的な視点も意識しながら聴く。
- iii よりよい成果を生み出すために課題やテーマについて、多面的・多角的に話し合う

目的	内容	コミュニケーションスキル
<p>・これから6年間過ごすためのチームワークの基礎をつくる。</p> <p>・多様で異なる人々との共存・共生のあり方を探る。</p> <p>批判的思考を基盤として、私たちはこれからどのように生きていくべきかを考える。</p>	<p>①時代や環境の変化を感じさせるモノや新聞のスクラップ記事を集め、発表する。</p> <p>②クローン人間の是非・アインシュタイン問題（どのような技術が社会や人々の生活に役立つのか）をリサーチし発表する。</p> <p>③よりよいチームとは何かを自分たちの取り組みを振り返って話し合う。</p> <p>④ツインリンクもてぎでの体験から気づいたことを付箋を活用して分類する。</p> <p>⑤5枚の資料からわかる現在の世界についての考えを発表する。</p> <p>⑥リサーチの結果に基づいて、チームでテーマについて議論しプレゼンテーションに取り組む。</p>	<p>自分の興味や関心、考えを他者にわかりやすく伝える。</p> <p>自分の考えを述べ、他者の意見に耳を傾ける。</p> <p>自分のチームについて、良い点・悪い点・改善点を確認することにより、グループでのプレゼンテーションへの意識を高める。</p> <p>個人の体験や気づきをグループで共有化を図る。</p> <p>多面的・多角的に思考する。</p> <p>提案内容・構成・方法について議論し、プレゼンテーションにむけての準備をする。</p>

②『伝統工芸体験学習』フィールドワーク【人間理解】

編入生を迎え心新たにスタートした2学期、第1学年では『伝統工芸体験学習』を実施した。その名に「国際」を冠する中等教育学校とはいえ、1年生段階においては、まず、わが国の歴史に裏打ちされた伝統工芸に接することが大切ではないかと考えた。それも、ただ単に鑑賞するのではなく、事業所の協力を得て、体験学習を実施することとした。

その目的として、下記の3点を置いた。

- ◇ 歴史の中で育まれた伝統工芸に直接触れるとともに、自ら「ものづくり」体験を行うことにより、職人さんの「匠」の技の奥深さを学ぶ。
- ◇ 東京下町をフィールドワークし、下町文化の一端に触れる中で江戸情緒を知る。
- ◇ 新たな仲間とともにフィールドワークをする中で、コミュニケーション能力を高める。

この「伝統工芸体験学習」の Unit Question は、「人はなぜ伝統を残すのだろうか…？」とし、江戸更紗・江戸指物・江戸切子・江戸風鈴に挑戦することとした。

事前学習においては、それぞれの伝統工芸の歴史および現状を書籍やインターネットで調査し、当日のインタビューに備えた。また、事後学習としては、事前学習および体験学習で学んだことをB4一枚の印刷新聞にまとめ研究集録を作成した。

以下に、研究集録に掲載されている生徒の声を紹介する。

[江戸更紗] 私は摺っただけだったため、江戸更紗って意外と簡単だなんて思ってしまった。しかし、実は摺るのにも力加減が難しかったり、色を考えるのも難しかったりと、昔からの伝統を守り続けるのは、私が考えるよりも、遥かに大変だということを知った。

[江戸指物] 一膳の箸を作るのに、こんなにも時間がかかるとは思いもよらなかった。百円ショップでも簡単に手に入る箸。日本人が食べるには欠かせない箸。あまりにも身近すぎて気にすることもなかったが、今日の体験で、この一膳の箸にもたくさんの思いが込められて、今こうして私の手元にあるということを知った。

[江戸切子] 私はハイテクロボット（自動カッティングマシン）で大量生産し、安価で発売というのでは、日本の伝統が衰退してしまうのではないかと不安になる。日本人の誇りとして、国の文化として、江戸切子を守っていく必要があると強く感じる学習であった。

[江戸風鈴] 職人さんが一番強調していた言葉は「毎日・毎日の練習！」つまり「毎日の積み重ねが大事だ」ということ。70年やっけていても、まだまだ修行中であり完璧というものはないそうだ。このフィールドワークを通して私は、「毎日の積み重ね」がどれだけ大切なことかを痛感した。まずは「練習」

今、一枚の更紗・一膳の箸・一枚の切子皿・一つの風鈴を前に、生徒たちはどのような感慨をもつのであろうか。あの時、感じた感性をいつまでも忘れないでいてほしいと願う。

② 「私たちの食と世界の料理」を訪ねるレストランフィールドワーク【国際理解】

6年一貫教育の中等教育学校として文部科学省の特別研究経費を交付されている本校は、「食」をテーマとして、広領域学習の実践に取り組むことが課題とされた。そこで、以下に示す Unit Question に基づいて、「私たちの食と世界の料理」の実践<註2>に取り組んだ。

Unit Question

- 学習への姿勢 『私たちが集めた情報をどのようにしたら、他者に効果的に伝えられるだろう？』
- 人間の創造性 『私たちが毎日食べているものは、どこから来るのだろうか？』
- 多様な環境 『豊食・飽食・崩食、これらの言葉はどういう意味だろう？ 私たちの生活はどの言葉にあてはまるのだろうか？』

○ コミュニティーと奉仕 『身近な地域で、私たちにとって今までなじみのなかった食文化にはどのようなものがあるのだろうか?』

目的	学習活動	学習スキル
私たちの生活と食のむすびつきを「食の安全」という視点からとらえる	食に関する偽装事件（冷凍ギョーザ問題等）を新聞をスクラップして調べる。	情報（新聞記事）の収集・分析・活用
私たちの生活を「食の国際化」という視点からとらえる	「コンビニ弁当」の食材をフードマイレージという視点からとらえる。	メディアリテラシー（映像資料の批判的分析）の育成
日本食ブームの背景を分析する	お寿司と自分の関わりを発表する 日本の捕鯨やマグロ漁に対する国際的な批判が起こる背景を話し合う。	ディベート：論題「捕鯨の是非？」
東京で食べることができる世界の料理を調べる	自分がこれまでに食べたことがある世界の料理を発表する。 食べてみたい世界の料理を調べる。	インターネット検索と図書資料収集
レストランフィールドワークの準備と訪問	フィールドワークの目的を確認する。 訪問先となるレストランをグループで探す。 交通経路、予約・料理の値段を確認する。	レストランへのアポイントメント レストランでの取材（インタビュー）活動 質問項目の検討
レストラン訪問についてプレゼンテーション	レストラン訪問に関して、インタビュー取材をおこなってわかったことや世界の料理、外国人の料理人・スタッフに関して気づいたことを発表する。	発表内容の構成について議論し、プレゼンテーションにむけての役割分担をする プレゼンテーションソフトの活用（情報技能）
レストラン訪問新聞の作成	新聞の書式・形式について理解する。 それぞれの新聞を研究集録にまとめ、合評会でお互いの新聞を読み合う。 訪問したレストランへのお礼状を作成し、新聞を同封し、発送する。	「社説」でこの学習に関する自分の意見を書き表す。 お礼状の形式

「私たちの食と世界の料理」を主題とする学習に関しては、第2学年において明治記念館において和食と洋食のテーブルマナー講習会を実施した。

<註2> 本実践は、ベネッセコーポレーションと東京学芸大学が連携しておこなった「市民性育成教育」の一部を構成するものでもある。

2 第2学年の実践

① ボランティアについて学び、体験する

国際教養の一環としてボランティア活動に取り組むにあたって、最初に取り組んだことは、担当者である私自身の意識改革であった。そのきっかけは大泉ボランティアコーナーを訪れたことであった。最初は「ボランティア活動の受け入れ先を探す」という安直かつ不純な動機をもって訪問したのだが、「何のためにボランティア活動を体験させるのか？」という本質的な部分について、質問を投げかけられた。「学校の外の社会という場で、人のために役に立つということの意義を云々」というようなお役所答弁のような答えをしてしまったかのように記憶している。紙数の関係と私自身の記憶力の関係からこの後のやり取りは省略するが、ボランティアコーナーでのやり取りを通して学んだことをまとめると、「一般的に、ボランティアは特別な人がとても立派な志を持って大変な苦勞を伴いながらしている活動というイメージが強いが、自分の身の回りにも自分の力でボランティアとして役に立つことはあるから、身近なこと、自分のできることから始められるものとして考えよう」ということだったように認識している。ここに至るまでのやり取りについて、武石玲子氏をはじめとする大泉ボランティアコーナーの方々には大変お世話になった。この場を借りてお礼申し上げたい。また、ボランティアの導入を検討している、あるいはプログラムの見直しを検討している学校関係者には、各地域のボランティアセンター等に足を運び、じっくり相談されることをお勧めする。

生徒たちも、ボランティアについてかつての私と同様の考えをもっている可能性は十分に考えられたので、まず生徒のボランティア観を調査することから始めた。

4月17日(木) ボランティアに関するアンケート

4月21日(月) アンケートの結果を踏まえて、ボランティアについて考察する。

5月1日(木) ボランティアについての講演(武石玲子氏)

5月8日(木) 講演についての振り返り

(2008年実施のデータに基づく)

その後、希望調査を行ったが、「ボランティアは特殊な活動」というイメージを全面的に払拭し尽くすことはできなかったかもしれない。取り組みたいボランティアとして挙がるのは、身近ではない分野についての希望、今の自分の力から離れた希望というのも少なくはなかった。一方でボランティアについて意識の向き始めた生徒も少なくなく、2008年度は90人弱の生徒が夏休み期間中にボランティア活動に取り組んだ。ボランティア活動について関心を示さない生徒の扱いはどこの学校でも問題になっていると思われる。大泉ボランティアコーナーとの話し合いでもボランティアに関心のない生徒に無理にやらせるのは、生徒にも受け入れたほうにも不幸だという話があったので、本校ではそういった生徒にはボランティア活動に取り組んでいる個人、団体へのインタビュー取材をさせた。そのことによってすぐにボ

ランティアへの意欲を持つようになることはないが、長い目で見たときのボランティア理解の一助になるはずだと考えている。2008年度は20人弱の生徒がこの活動に取り組んだ。

今後も、身近なこと、自分の力でできることにこだわってボランティア活動を継続していきたいが、一過性の活動になっている傾向は否めない。学校での取り組みをきっかけとして、継続してボランティアに関わる生徒が増えていくような仕掛けづくりが今後の課題であろう。

② 人生ゲームづくりを通して学ぶ、おかねと私たちのつながり

国際教養領域を設計していくにあたり、現代的な課題を読み解く力を育成していくための学習テーマとして、「金融教育」に取り組んでいくことが計画された。

折しも、2008年9月には、リーマンブラザースの破綻を契機とする金融危機が発生し、世界や人々の生活に深刻な影響を与えた。人間が生きていくうえで生産や消費という経済活動が無視することはできない。また、生涯にわたって、おかねとの関わりを切り離して生活していくことも難しい。

グローバルな経済ネットワークが私たちの生活を包み込んでいる今日、おかねを軸とする「金融教育」が今、学校教育において必要で、もとめられていることは、銀行や証券会社との連携を図った「金融教育」が急速に広がりを見せていることから理解できる。しかし、学校教育のカリキュラム、特に、国際教養の学習として「金融教育」に取り組むときに、本校でとりわけ強調したい視点が、キャリア教育との関連を明らかにした視点である。そこで、生徒のこれからの人生とおかねが具体的にどのような場面で結びついてくるのかということ、それぞれの生徒が、自分の将来の夢や生き方という点から主体的に探究して学習活動を本校の「金融教育」の核に位置づけた実践を試みた。

同時に、「金融教育」において今日もとめられる視点は、銀行や証券会社のような資金の運用や投資のプロの現実に根ざした営利中心＝おかね至上主義＝greedの視点ではなく、自分の将来像、幸福感、トータルな意味での生き方の探究ではなかろうか。世界で有数の経済大国でありながら、格差の拡大に伴い貧困に苦しむ人々が増加している現代日本社会の現実を視野にとらえ、自分だけが金銭的に豊かになれば幸せで満足だという「強欲」的で、「弱肉強食」的な経済観の問題性と経済的・社会的に弱い立場に立った場合のセーフティーネットの重要性に生徒が気づく仕掛けを「金融教育」のなかで明確に位置づけておくことが必要であろう。つまり、おかね持ちになることを直接的、間接的にねらいとする「金融教育」ではなく、社会の中では、さまざまな人々がそれぞれの個性や能力を発揮して生き、共に豊かで幸せな生活を作り上げていこうと厳しい現実のなかで努力している姿に気づいていくことができる「金融教育」のあり方を中学生段階の子どもたちの視線から探していきたい。

このような考え方から、小学生時代に多くの子どもたちが親しんできている「人生ゲーム」を本実践の中心的な学習題材として、以下に示すおかねと生徒のライフサイクル・ライフサイクルの結びつきを多面的多角的にとらえていくことをねらいとして以下に示すような学習活動に取り組んだ。

Unit Question : 「おかねは、私たちを幸福にするだろうか？」

- i アンケート調査・「おかねと幸福に関する私たちの意識」から見えてきたもの
- ii 「人生ゲーム」で遊ぼう
- iii タカラ・トミー社のゲーム開発者による「人生ゲーム」作成に関する講演

- iv おかねとの関わりから「人生ゲーム」のコマを分析し、「人生ゲーム」が多くの人々に長く楽しまれている理由とゲームに潜む問題点をとらえよう。
- v 貯蓄、生命保険や損害・火災保険、株、住宅や自動車購入、雇用保険、年金、介護保険、学費、結婚費用、職業と給料、銀行や証券会社の役割等について調べてみよう
- vi 「人生ゲーム ISS 版」を作成していこう
- vii 「人生ゲーム ISS 版」で遊んでみて、おかねと私たちの将来について気づいたことをまとめ、グループで話し合ってみよう。
- viii 人生ゲームの作成を振り返って、レポート「おかねと私の人生」をまとめよう。

3 理数探究の実践〈註3〉

① 第1学年の実践

リスーピア（江東区有明の PANASONIC 館）と科学技術館（千代田区北の丸）でのフィールドワークを実施し、数学や理科の視点に立った展示の工夫や実験によるプレゼンテーションの効果を経験的にとらえることをめざした。

② 第2学年での実践

身近な題材である「水」をテーマとして、東京都水道資料館（千代田区水道橋）と水の科学館（江東区有明）でのフィールドワークを導入学習とし、「水」を取り扱った実験・観察に取り組み、考察レポートを作成する学習を実施した。

また、先端技術館（港区北青山）でのフィールドワークでは、私たちの日常生活の中に生かされている科学的先端技術について触れる学習に取り組んだ。

〈註3〉 平成21年度からは、第1学年において週1時間の「理数探究」の授業を設定し、理科と数学科が連携を図った指導を新たに展開している。

※ LEの実践に関する基本的な考え方については、「国際中等教育研究」第2号 P42～P43参照 2008。また、LEの学習計画については、下記の表参照。

4 国際教養を実践を通して明らかになってきた課題

IBのMYPに関する学習においては、評価の観点と規準をあらかじめ明示しておくことがもとめられる。このことは、各教科の学習のみならず、国際教養の学習においても生徒の変容をどのように評価していくのかということが明確にされていなければならないことを意味する。本実践報告においても、国際教養の学習内容をどのように構成していくかという点に力点が置かれていることから、今後、国際教養の特色にねざした指導のあり方、評価および評価の妥当性を検討していく必要がある。

また、コミュニティーと奉仕に関する学習活動を国際教養の枠組みの中で、日常的に展開していく創意と工夫がもとめられる。

さらに、東京大学法科大学院及び東京学芸大学社会科との連携により、試行的に取り組んでいる市民社会で生きるためにもとめられる「リーガルマインド」（法的思考）の育成を国際教養にいかに関与させていくかという点が課題として残されている。

<LEの学習計画>

1年

7th Grade Learning in English	Term 1: Languages, Humanities, Mathematics & PE				Term 2: Sciences & Technology				Term 3: Arts		
	April	May	June	July	September	October	November	December	January	February	March
Subject area focus of units:	Languages A & B	Humanities	Humanities	Mathematics and PE	Technology	Physics	Chemistry	Biology	Music	Visual Arts	Recap
Unit Questions:	What is the best kind of learner?	Where in the world are we?	How do our actions affect other people and other things?	How common are symbols? Why do we exercise?	What is progress? Is it ok to regress?	What's the matter with matter?	What makes humans special?	What is life?	How do we enjoy music?	What is beautiful?	How shall we proceed?
AOI	Es	C&S	C&S	HI	C&S	HI	HSE	Es	HI	C&S	Es
ATL	Organizing your world for learning, reflection on past best practices	Timelines, Exploring civics	Recycle paper and the making of the things around us.	Transfer, Mental and physical fitness	Balancing both personal and ecological happiness with the global need for speed	single and multiple causes and effects	Human systems and components...at the cellular level it's ALL chemistry	Complex systems.	Musical notation, vocabulary and history	Tools and history of visual and plastic arts	Transfer across subjects and years. Towards the Personal Project
Topics of study	Review of Grammar, General study skills, technology, etc.	History, Social Studies	Garbage, Waste, Recycling, Pollution	Mathematical terminology, Logical reasoning /syllogism, Interdisciplinarity, Rules of games, Conditions of play and the uses of fun	Innovation, obsolescence, "progress"	Astronomy, Newtonian mechanics and relativity	Chemical notation, scientific notation, chemical vs. physical change	The whole is greater than its parts	Sound, frequency, musical scale, Pythagoras, euphony/caucophony	Primary & Secondary colors of light and paint, single- and double-point proportion, abstract art	Research methods, summative product selection, etc.

2年

8th Grade Learning in English	Term 1: Languages, Humanities, Mathematics & PE				Term 2: Sciences & Technology				Term 3: Arts		
	April	May	June	July	September	October	November	December	January	February	March
Subject area focus of units:	Languages A & B	Humanities	PE	Mathematics	Technology	Physics	Chemistry	Biology	Music	Visual Arts	Recap
Unit Questions:	What is the best kind of learner?	Where in the world are we?	What is exercise?	How common are symbols?	What is progress?	What's the matter with matter?	What makes humans special?	What is life?	How do we measure?	What is beautiful?	How shall we proceed?
AOI	Es	C&S	HSE	HI	C&S	HI	HSE	Es	HI	C&S	Es
ATL	Organizing your world for learning, reflection on past best practices	Timelines, Exploring civics	Mental and physical fitness	Transfer	The golden mean between Luddites and technophilia	single and multiple causes and effects	systems and components	Complex systems	Musical notation, vocabulary and history	Tools and history of visual and plastic arts	Transfer across subjects and years. Towards the Personal Project
Topics of study	Review of Grammar, General study skills, technology, etc.	History, Social Studies	Rules of games, Conditions of play and the uses of fun	Mathematical terminology, Logical reasoning /syllogism, Interdisciplinarity	Innovation, obsolescence, "progress"	Astronomy, Newtonian mechanics and relativity	Chemical notation, scientific notation, chemical vs. physical change	The whole is greater than its parts	Sound, frequency, musical scale, Pythagoras, euphony/caucophony	Primary & Secondary colors of light and paint, single- and double-point proportion, abstract art	Research methods, summative product selection, etc.

3年

9th Grade English for Academic Purposes	Term 1: Languages, Humanities, Mathematics & PE				Term 2: Sciences & Technology				Term 3: Arts		
	April	May	June	July	September	October	November	December	January	February	March
Subject area focus of units:	Languages A & B	Humanities	PE	Mathematics	Technology	Physics	Chemistry	Biology	Music	Visual Arts	Recap
Unit Questions:	What is the best kind of learner?	Where in the world are we?	What is exercise?	How common are symbols?	What is progress?	What's the matter with matter?	What makes humans special?	What is life?	How do we measure?	What is beautiful?	How shall we proceed?
AOI	Es	C&S	HSE	HI	C&S	HI	HSE	Es	HI	C&S	Es
ATL	Organizing your world for learning, reflection on past best practices	Timelines, Exploring civics	Mental and physical fitness	Transfer	The golden mean between Luddites and technophilia	single and multiple causes and effects	systems and components	Complex systems	Musical notation, vocabulary and history	Tools and history of visual and plastic arts	Transfer across subjects and years. Towards the Personal Project
Topics of study	Review of Grammar, General study skills, technology, etc.	History, Social Studies	Rules of games, Conditions of play and the uses of fun	Mathematical terminology, Logical reasoning /syllogism, Interdisciplinarity	Innovation, obsolescence, "progress"	Astronomy, Newtonian mechanics and relativity	Chemical notation, scientific notation, chemical vs. physical change	The whole is greater than its parts	Sound, frequency, musical scale, Pythagoras, euphony/caucophony	Primary & Secondary colors of light and paint, single- and double-point proportion, abstract art	Research methods, summative product selection, etc.